平成29年度

東大和市・東村山市

地域の戦争・平和学習
及び
広島派遣事業

報告書

平成29年12月

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会　委員長
東大和市長　尾 崎 保 夫

戦後72年が過ぎ、戦争を語り継ぐことが大変難しくなっております。戦争の記憶を風化させないために、今こそ、次代を担う若い方々に戦争を語り継いでいく必要があります。戦争の悲惨さ、平和の大切さを次の世代へ伝え、平和な社会を未来につないでいくことが、今を生きる私たちの責務であります。

こうした中、今年も、東大和市と東村山市が連携し、第3回目になります中学生を対象とした「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を、東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金（子ども体験塾）の交付を受け実施しました。

参加した中学生たちは、初めに、東大和市や東村山市の施設等を巡り、自分たちが住んでいる地域がたどった戦争の歴史について学習しました。東大和市では、戦災建造物である旧日立航空機株式会社の変電所を見学しました。この変電所は、昭和13年に建設され、昭和20年の空襲による無数の機銃掃射や爆撃の跡を当時のまま残しており、今も生きて、戦争の恐ろしさを訴え続けています。実際に変電所を見た中学生たちは、自分たちの住んでいる身近な地域が戦争の脅威にさらされていたことに驚き、戦争や平和について多くのことを感じたことでしょう。

その後、広島市を訪問し、世界で初めて核兵器が使われ、原子爆弾により一瞬にして破壊された街の惨状の記録と記憶に実際に触れてきました。中学生たちは、被爆者やその家族の方から、被爆当時の話を聞きました。また、平和記念式典に参列するとともに、平和への祈りを込めて、とうろう流しを行いました。そして、戦後、多くの人たちの努力により広島市が復興し、現在の姿になったことを知りました。

中学生たちは、この事業を通じ、戦争がどのようなものかを実感し、悲惨な戦争を二度と起こしてはならないという想いを強く心に刻んだことでしょう。また、現在の平和な世の中が決して当たり前のものではなく、多くの先人たちの犠牲や努力の上で築かれたものであることを学び、その平和の大切さを次の世代に伝えていくことが、いかに重要であるかを学習したと思います。実際に、派遣後に実施しました報告会におきましても、中学生たちの平和に対する熱い想いを聞くことができ、この事業が大変意義深いものであったと感じております。

これから、中学生の皆さんには、この事業で学んだことをさらに次の世代に伝えていっていただきたいと思います。次代を担う若い方々によって、戦争の悲惨さ、平和の大切さが語り継がれ、恒久平和が実現することを願っております。

東大和市は、平成2年10月1日、核兵器の廃絶と恒久平和を願い、「東大和市平和都市宣言」を行い、平和を愛する人々と手を携え、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することを誓いました。これからも、世界で唯一の核被爆国の国民として、様々な取組みを通じて、戦争のない平和な社会を未来に引き継いでまいります。

結びに、本事業にご参加いただきました中学生及びその保護者の皆様、また、事業実施に向けてご協力いただきました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

平成29年12月

東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 副委員長
東村山市長　渡　部　　尚

人類史上最初の原子爆弾が広島と長崎に投下されてから72年が過ぎました。一発の原子爆弾はまちを一瞬にして破壊し、多くの尊い命を奪いました。辛うじて生き延びた人々も、目に見えない放射線の障害に苦しみ、心身に負った深い傷は、今なお、消えることなく人々を苦しめています。

世界で唯一、核兵器による惨禍を体験した私たちは、核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さ、さらに平和の大切さを決して忘れることなく伝えていかなくてはなりません。しかしながら、昨今、核実験やミサイル発射の報道に触れることが度々あり、世界の平和と安全を著しく損なうものであると強い憤りを覚えます。

東村山市は、昭和39年に「平和都市宣言」を、昭和62年には「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。以来、核兵器や戦争のない平和な社会の実現に向けて、「核兵器廃絶と平和展」「平和のつどい」などを毎年開催しています。

恒久平和を願う取り組みの一つとして、平成27年度より東大和市と合同で市内中学生を対象に「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を実施し、今年も両市の中学生14人がこの事業に参加いたしました。

中学生たちは、地域の戦争・平和学習をしっかり行った上で広島を訪問しています。東村山ふるさと歴史館や、東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所において身近な地域に起こった戦争について学び、これにより戦争や平和に対するイメージがより具体的になったのではないでしょうか。

広島では被爆者から体験談を聴き、平和記念式典にも参列しました。また、爆心地から一番近い小学校である「本川小学校平和資料館」を訪問し、原爆投下により400人近い児童と10人余りの教職員が一瞬のうちに亡くなったことなど、原爆の悲惨さを直接伺ってきています。

戦争を直接体験した方々の平均年齢は81歳を超えています。私たちは、次世代を担う子どもたちに、二度と戦争を起こしてはならないことを伝え、平和を守っていく、その先頭に立っていかなくてはなりません。

この事業を通じ、参加した中学生たちがどのように感じ受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧いただき、一緒に平和について考える機会にしていただければ幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました中学生及び保護者の皆さま、ご協力いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

平成29年12月

目　次

① 実施概要・日程 …… 4

② 参加者名簿 …… 5

③ 地域の戦争・平和学習会 …… 6

④ 広 島 派 遣 …… 10

⑤ 報 告 会 …… 16

⑥ 参加者感想文

Ａグループ …… 20

Ｂグループ …… 24

Ｃグループ …… 30

⑦ 参加者アンケート …… 36

⑧ 資　料

東大和市平和都市宣言 …… 40

東村山市核兵器廃絶平和都市宣言 …… 41

1 実施概要・日程

事業の趣旨・目的

東大和市・東村山市の中学生が、自分たちが住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習とするとともに、世界で初めて核兵器が使われた広島市の惨状の記録と記憶を実際に見聞することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

実施経過

7月 6 日（木）東大和市 7月 7 日（金）東村山市	事業全体の事前説明会
7月21日（金）	地域の戦争・平和学習会（東大和市・東村山市）
8月 5 日（土）～7日（月）2泊3日	広島派遣（広島市）
8月10日（木）	報告会準備（東村山市役所）
8月19日（土）	報 告 会（東大和市「平和市民のつどい」）
8月27日（日）	報 告 会（東村山市「平和のつどい」）

広島派遣日程

日次	月日（曜）	行程	宿泊地
1	8/5（金）	●集合時間　東大和市駅 8時30分　東村山駅 8時30分 東大和市駅（西武線）／東村山駅（西武線）— 10:37 品川駅 —（JR新幹線利用（のぞみ25号））— 14:26 広島駅 — 15:10 **広島市青少年センター** — 【昼食：車中にてお弁当】 **※広島被爆者体験講話聴講** **グループワーク** **とうろう作り** — 19:00 夕食 - - - 20:00 ホテル	広　島
2	8/6（土）	6:00 ホテル（朝食） — **広島平和記念公園** 7:15 **（式典参加）** — 9:30 **原爆の子の像** — 9:50 **原爆ドーム** — 10:15 **袋町小学校平和資料館** ※保存されている被爆した校舎を見学し、平和を学びました。 ※式典：8:00～8:45 式典に参加し、原爆死没者に哀悼の意を表し、恒久平和の実現を祈りました。 — 11:10 **広島城** — 12:30 昼食 — 13:55 **江波山気象館** — 15:15 **放射線影響研究所** — 16:30 **本川小学校平和資料館** ※被爆建物の原爆の痕跡、被爆当時の気象台の様子などを学びました。 ※被爆した旧国民学校の建物の一部を利用した平和資料館を見学しました。 — 18:00 **とうろう流し** ※前日に作製したとうろうを流しました。 ※夕食後、とうろう流しの会場を見学しました。 - - - 19:00 夕食 — 20:30 ホテル	**コートホテル広島**
3	8/7（日）	7:30 ホテル（朝食） — 8:50 **国立広島原爆死没者追悼平和祈念館・広島平和記念資料館** ※戦争や原爆に関する資料に触れ、平和について学習しました。 — 12:17 広島駅 —（JR新幹線利用（のぞみ24号））— 16:13 東京駅 — 【昼食：車中にてお弁当】 東大和市駅（西武線）／東村山駅（西武線） ●到着時間　東大和市駅18時00分頃　東村山駅18時00分頃	

2 参加者名簿

市も学年も混合の３つのグループを編成し学習しました。

参加者：東大和市　６人（男３人　女３人）
　　東村山市　８人（男３人　女５人）

報告会：A・Bグループ　８月19日（土）東大和市「平和市民のつどい」
　　Cグループ　　８月27日（日）東村山市「平和のつどい」

グループ	名　前	学　　校	学　年
A	遠藤（えんどう）　真緒（まお）	東大和市立第五中学校	１年
	鈴木（すずき）　脩崇（はるたか）	東村山市立東村山第七中学校	１年
	竹本（たけもと）　和生（かずき）	東大和市立第三中学校	３年
	古屋（ふるや）　流菜（るな）	東村山市立東村山第五中学校	２年
B	大澤（おおさわ）　耕喜（こうき）	東村山市立東村山第二中学校	２年
	菊池（きくち）　優羽（ゆう）	東大和市立第五中学校	１年
	野澤（のざわ）　有希（ゆき）	東村山市立東村山第五中学校	１年
	古田（ふるた）　大樹（だいき）	海城中学高等学校	２年
	町田（まちだ）　鮎美（あゆみ）	東村山市立東村山第二中学校	２年
C	板倉（いたくら）　美有（みう）	東村山市立東村山第五中学校	１年
	小倉（おぐら）　拓巳（たくみ）	東大和市立第一中学校	１年
	尾上（おのうえ）　琴美（ことみ）	東大和市立第五中学校	１年
	田口（たぐち）　龍義（りゅうき）	東村山市立東村山第三中学校	３年
	本橋（もとはし）　奈々（なな）	東村山市立東村山第二中学校	２年

3 地域の戦争・平和学習会

中学生たちは、東大和市と東村山市の施設を見学し、
自分たちが住んでいる身近な地域でも
戦争の被害があったことを学びました。

スケジュール

7月21日（金）

午前
- 東村山市「被爆石モニュメント」見学・「東村山ふるさと歴史館」見学
- 東大和市 戦争体験映像記録DVD「沈黙の証言者」視聴

午後
- 東大和市指定文化財「旧日立航空機株式会社変電所」見学
- グループワーク「地域の戦争・平和学習について感じたこと」「広島で学びたいこと」

被爆石モニュメント見学

地域の戦争・平和学習会の第一歩として、東村山市にある「被爆石モニュメント」を見学しました。

これは、原爆が投下されたことにより被爆した、広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石と、長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部を東村山市が譲り受け、平成元年9月25日に『被爆石モニュメント』として東村山市中央図書館前に設置したものです。

長崎市の山里小学校は、爆心地から約620mのところにあり、原爆の熱線を浴び、多くの命が奪われました。

このモニュメントは、市民の平和を願う心の証として、原爆の恐ろしさを人々に訴え続けています。

東村山ふるさと歴史館見学

「東村山ふるさと歴史館」で、東村山における戦争の被害について学びました。

当時、東村山地域にもB29が飛来し、照明弾と時限爆弾が投下されたことや、これにより家屋が被災し、死者もいたことを教わりました。そのような中、低空飛行していたB29が南秋津に墜落、乗組員全員が死亡しました。後に、地元に住む市民の手によって、B29が墜落した場所に平和観音が建立され、手厚く葬られています。

東村山には軍事施設である「陸軍少年通信兵学校」があり、全国の15歳から18歳までの少年

たちが在学し、モールス信号の送受信や通信機の扱い方について訓練を受け、戦地で作戦命令や報告を通信しました。

また、1,000人の人たちが一つずつ縫い、思いを集めて兵隊の方に渡すと無事に帰ってくるという祈りが込められた、「千人針」の現物も見ました。

戦後も市内では不発弾の処理を行うことがあるなど、戦争は身近な地域にも大きな影響を及ぼしていたことが分かりました。

これら当時の状況をふるさと歴史館の職員から聞き、展示等を通じて、地域の戦争について学習しました。

戦争体験映像記録DVD視聴

東大和市では、戦後70年の節目である平成27年、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることがないように、旧日立航空機株式会社に勤務されていた方の戦争体験談、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」を制作しました。

証言された方々の話から当時の様子が目に浮かぶようで、その時の様子を想像しながら視聴しました。

「沈黙の証言者」のダイジェスト版がYouTube「東大和市公式動画チャンネル」で視聴できます。

旧日立航空機株式会社変電所見学

旧日立航空機株式会社変電所は昭和13年、当時の東京府北多摩郡大和村に建設が開始された飛行機のエンジンを製造する軍需工場に電気を供給する重要な施設でした。昭和20年には他の多摩地域の軍需工場と同様に、度重なる米軍の空襲を受け、従業員や家族など、あわせて111人の尊い命が失われました。

この変電所は、戦後、経営母体が変わっても修理されないまま平成5年まで操業を続け、平成7年に東大和市の文化財に指定されました。

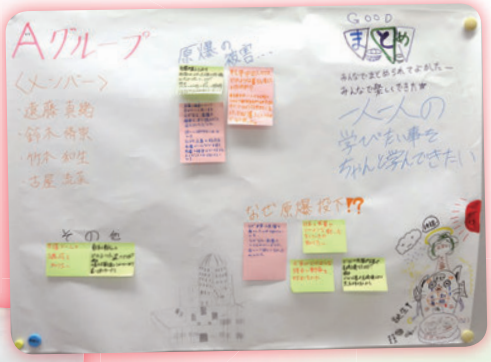
学習会では、普段は公開されていない施設内にも入り、おびただしい数の機銃掃射や爆弾の痕を確認しました。あわせて、東大和市立郷土博物館の職員から、戦争当時の施設周辺の状況や、働いていた方々の被害についても説明を受け学習しました。

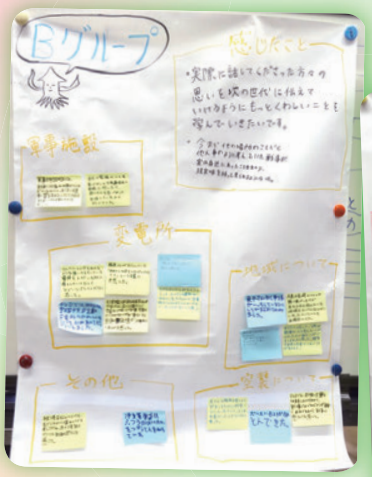
グループワークでのまとめ

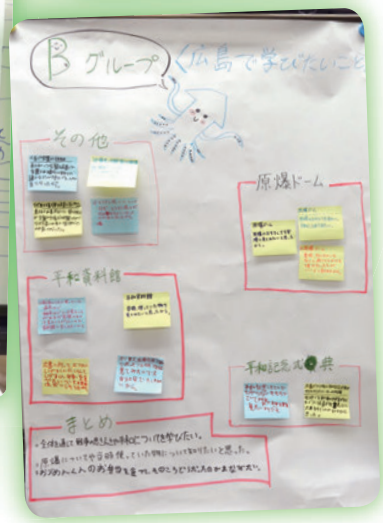
これらの学習のまとめを行うために、３つのグループに分かれ、グループワークを行いました。

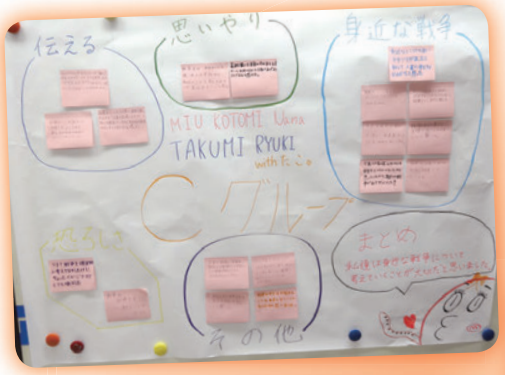
「地域の戦争・平和学習について感じたこと」「広島で学びたいこと」を付せんに書き模造紙にまとめました。最後にグループごとに発表しました。

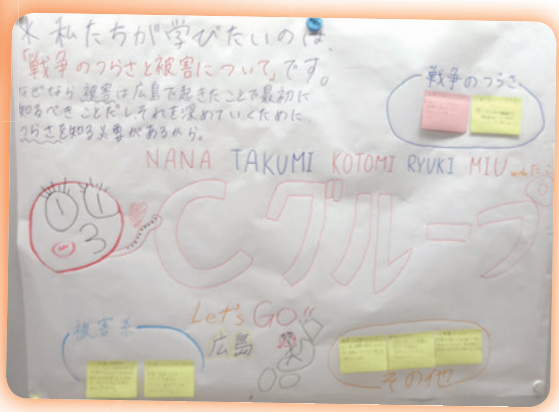
中学生たちは、この日の学習を振り返り、戦争と平和について話し合うことで、自分たちの住んでいる身近な地域のことについて、知識を深めることができました。











4 広島派遣

1日目 8/5(土)

広島被爆者体験講話の聴講

広島市青少年センター

講師：切明千枝子（きりあけちえこ）さん

被爆者である切明さんの話を聴きました。原子爆弾が落とされた72年前も今日のように暑い日でした。地上600m付近で爆発するよう計算され落とされた原子爆弾は、広島に4000度から5000度という高熱・熱線を降り注ぎ、多くの人々が焼かれて亡くなっていきました。切明さんは、奇跡的に助かったものの、放射能を浴びた体は髪が抜け、斑点が出来ました。「今、生きていることが不思議な気持ちになる」とお話しされました。「戦争は戦争を始めた人達ではなく、全く関係のない人たちが亡くなること、戦争は人間のみならず、動物、植物全ての命を奪ってしまうこと、戦争は絶対に二度としてはいけないと皆が声を上げ行動しなければ、また戦争が起こってしまうことを決して忘れないでほしい」という言葉が印象的でした。

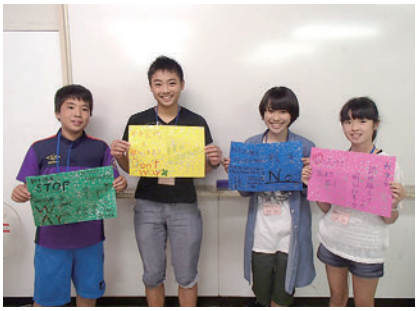
切明さんのお話を聴き、中学生たちは、あの日に何が起こったのかを知るとともに、原子爆弾の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の大切さを学ぶことができました。

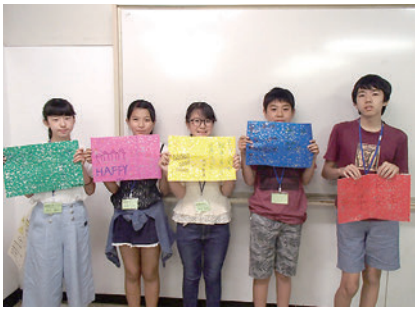
聴講後、グループごとに分かれ、それぞれが切明さんのお話を聴いて、感じたこと、考えたことを話し合い、発表をしました。

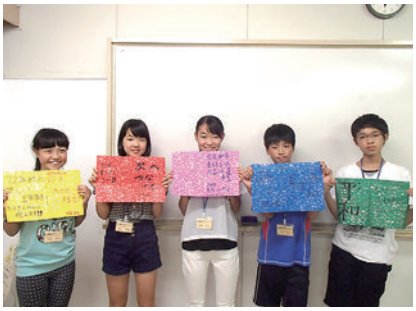
とうろう作り

広島市青少年センター

２日目のとうろう流しに使う色紙に、二度と戦争を起こしてはならないと、平和な世の中がずっと続いていくことを願い、メッセージやイラストを描きました。中学生たちの平和への想いが込められたものが出来上がりました。







2日目 8/6(日)

平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

平和記念公園で行われた平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列し、原爆被害により亡くなられた方々に哀悼の意を込め、恒久平和を願い祈りました。世界各国からの参加もあり、世界中の人々が原爆の恐ろしさや平和の大切さを感じることができました。また、広島市の小学校６年生２人による「平和への誓い」の中で、「あのまま、人々があきらめてしまっていたら、復興への強い思いや願いを捨てていたら、苦しい中、必死で生きてきた人々がいなければ、今の広島はありません」という言葉がありました。人々の大きな努力により今の平和があることを改めて感じることができました。

原爆が投下された午前８時15分には、平和への願いを込めて、１分間の黙とうを捧げました。

平和の灯

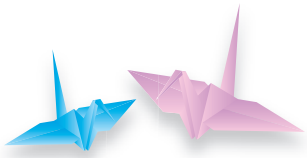
平和の灯は、1964年８月１日に点火されて以来、現在までずっと燃え続けています。核兵器が世界中から無くなるまで燃やし続けようという反核悲願の象徴となっています。中学生たちは、平和の灯を見学し、平和への願いを強くしました。

原爆の子の像

２歳の時に被爆した佐々木禎子さんは、元気で活発な少女でしたが、小学校６年生の時に突然白血病と診断され、８か月間の闘病生活の後、12歳で亡くなりました。禎子さんは、「鶴を千羽折れば病気が治る」と信じ、亡くなる前に薬の包み紙などで1,300羽以上の鶴を折り続けました。

悲しい知らせを聞いた同級生たちは、禎子さんをはじめ原爆で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかけるために、多くの人たちの協力により「原爆の子の像」を建てました。平和を願い、今も年間1,000万羽の折り鶴が捧げられています。

中学生たちは、自分たちで折った折り鶴を捧げ、平和を祈りました。



原爆ドーム

原爆ドームのもとの建物は、1915年に建設され、原爆投下時は、「広島県産業奨励館」として、広島県の様々な物産を展示していました。原爆投下に際し、爆心地至近（北西約160m）にあったため、もとの建物の中央ドーム部分を残し破壊されました。戦後、周囲の復興が進む中、唯一破壊されたままの姿で取り残され、一時は「原爆のことを思い出したくない」という声もあり、解体の話も出ましたが、1995年に国の史跡に指定され、翌1996年に世界遺産として登録されました。

原爆の威力を思い知る建物の姿に、核兵器の恐ろしさを改めて実感しました。

島病院（爆心地）

広島の原爆の爆心地は、当時の島病院と言われています。現在は、島内科医院となっており、建物の横に、爆心地についての説明板があります。原子爆弾は、この上空約600mで炸裂しました。爆心直下となったこの一帯は約3000度から4000度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が一瞬で命を奪われました。

中学生たちは、爆心地に立ち、平和について考えました。

袋町小学校平和資料館

袋町小学校平和資料館は、被爆した校舎（西校舎）を改装して造られています。

原子爆弾により木造校舎は全壊全焼し、鉄筋コンクリート三階建の西校舎は外形のみを残して焼失しました。学童疎開をしないで登校していた児童、教職員約160人が朝礼直後に被爆し、ほとんどが犠牲になりました。被爆後、西校舎は救護所となり、階段室の壁面には被爆者の消息を知らせる多くの伝言が残されており、当時の様子を感じることができました。

広島城

広島城は、原爆投下当時、天守閣等の建物が江戸時代から残っていましたが、原子爆弾の投下で、天守閣は倒壊し、門や櫓は焼失してしまいました。現在の広島城は、戦後に再建されたもので、天守閣の中では様々な歴史に関する展示が行われています。

中学生たちは、広島壊滅の第一報を打電した中国軍管区司令部防空作戦室跡や被爆樹木、復元された天守閣などを見学しました。天守閣の中では、ミニガイド「広島城と原爆」の説明を聴き、広島城の歴史と原爆被害について学びました。

江波山気象館

江波山気象館は、戦争当時に広島地方気象台だった建物を利用した、全国でも珍しい気象をテーマにした博物館です。建物自体は原爆投下にも耐えた現存する被爆建物で、原爆の爆風で曲がった窓枠や壁に刺さったガラス片などが当時のまま残されています。建物を見学し、様々な原爆の傷跡や資料に触れ、被害の凄まじさを感じることができました。

放射線影響研究所

放射線影響研究所は、被爆者の健康調査や被爆の病理的調査・研究を行う研究機関です。「この夏、放影研を知ろう！」という、オープンハウス（施設一般公開）を開催していたので、見学しました。オープンハウスでは、原爆被害者の子どもの健康に関する調査の紹介や、血液を顕微鏡で見てみよう！等のコーナーがあり、身近なのに知らないことや、原爆による放射線被害を知ることができ、とても勉強になりました。クイズに答えてスタンプラリーも体験しました。

本川小学校平和資料館

爆心地から最も近く（約410m）にあった旧本川国民学校の校舎にある平和資料館を見学しました。

そこでは、被爆２世のボランティアガイド岩田美穂さんから、母親の原爆の体験を聴きました。岩田さんの母親は、原爆によって、一家６人のうち５人を亡くし、自分一人だけが生き残りました。岩田さんは、被爆数日前に撮ったという、母親の一家６人の家族写真を見せながら、その悲しみに満ちた話をしてくれました。中学生たちは、その話を聴き、「戦争を絶対に繰り返さない」という思いを強くしました。

とうろう流し

平和記念公園の脇を流れる元安川で行われたとうろう流しに参加しました。前日にそれぞれの平和への想いを描いた色紙を使い、ろうそくの灯をともしたとうろうを一人一つずつ川へ流しました。

たくさんの人たちの願いが込められたとうろうが流れていく光景は、とても美しく、平和を願い皆で祈りました。平和であることへの感謝や今後もこの平和を守り続けていかなければならないという強い気持ちが生まれました。

3日目 8/7(月)

広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

広島平和記念資料館は、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島の歩みや核時代の状況などについて紹介しています。資料の一つ一つには、人々の悲しみや怒りが込められています。原爆投下時刻の8時15分で止まった時計や、原爆の犠牲となった人々の衣服の展示がありました。

また、今年の4月にリニューアルオープンした東館（本館は閉館し、改修工事中）には、最新の映像技術を利用した広島市の地形模型などの展示があり、原爆の恐ろしさをリアルに感じることできました。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原爆死没者の尊い犠牲を銘記し追悼の意を表するとともに、永遠の平和を祈念するために建てられた施設です。中には、平和祈念・死没者追悼空間があり、原爆死没者を静かに追悼し、平和について考える場所となっています。また、情報展示コーナーには、10万編を超える被爆体験記が所蔵されており、改めて原爆の悲惨さや恐ろしさを学びました。

5 報告会

本事業は、東大和市と東村山市が共同で実施した事業であり、
報告会は、各市で実施した平和行事の中で行いました。
事前に報告会の準備をして、８月 19 日（土）東大和市「平和市民のつどい」で
Ａグループ及びＢグループ、８月 27 日（日）東村山市「平和のつどい」で
Ｃグループが報告を行いました。

報告会準備

期日	**平成 29 年 8 月 10 日（木）**
場所	東村山市役所　いきいきプラザ３階　マルチメディアホール

地域の戦争・平和学習について、東村山市のふるさと歴史館や東大和市の旧日立航空機株式会社変電所などで学び感じたこと、広島派遣事業について、広島を訪問し様々な場所や資料、被爆体験者の講話などから学び感じたことについて、自分自身の感想を含め、グループでまとめました。報告会での発表のためにスライドも作成し、自分たちが学習したことや感じたこと、平和の大切さがしっかり伝わるよう、発表の練習を何度も行いました。

報告会 1

期日	平成29年8月19日（土）　東大和市「平和市民のつどい」
場所	都立東大和南公園　旧日立航空機株式会社変電所前　平和広場

Aグループ

東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所の見学では、爆撃によって建物に無数の穴が開いている状態を見て、戦争当時の悲惨さを感じることができたことなどを伝えてくれました。

広島派遣では、被爆体験者の切明さんの話を聞き、戦争は二度と起こしてはならないものであると分かったこと、そして戦争の悲惨さをたくさんの人に伝えていかなければならないと思えたことなどを語ってくれました。爆心地からとても近い原爆ドームが全壊しなかったことに驚くとともに、実際に原爆ドームを見るととても凛々しく感じ、感動したとのことです。まるで原爆の恐ろしさを物語っているようだったと語ってくれました。また、原爆の子の像に折り鶴を捧げた時、原爆は罪のない多くの人の命を奪うものだと改めて感じ、とうろう流しには外国人も多く参加していたため、外国人も平和を祈り戦争を無くしたいという気持ちは一緒なのだと感じたとのことでした。

グループとしての報告の後、事業に参加した感想を１人ずつ発表しました。

- 一番心に残ったのは、広島平和記念資料館です。その資料館は、数多くの人々が亡くなった事実を表していて、展示品から戦争の悲惨さを知ることができました。この事業で経験した内容を伝えていきたいと思いました。
- この広島派遣事業で一番心に残った現物は、原爆ドームです。とても立派な建物だったのに原爆を落とされたことによってボロボロになり、原爆ドームと名前が変わり、とてもインパクトが強いと感じたからです。戦争はしたくないし、考えるだけでも悲しくなるので、戦争の悲惨さや命の大切さを伝えていけば、戦争は無くなっていくと思います。
- 広島平和記念資料館で、原爆の被害を受けたものを見ているうちに、原爆に対する怒りがこみ上げてきました。また、どんな理由があろうと、人の命を奪い、自然を焼き払う戦争をしてはいけません。原爆も落としてはいけません。これからはもっと命を大切にし、平和である喜びをかみしめていきたいです。そして戦争の悲惨さを誰かに伝えていきたいです。いつまでも平和な世の中を作れたらいいと思います。
- 東大和市と東村山市という身近な地域でも戦争が行われていたことに気づきました。ここにいる皆さんも、もし戦争をしようとしている人や兵器を作っている人が近くにいたら、戦争はだめだよと言ってください。このようにすれば、戦争は無くなり、平和を守ることができると思います。

B グループ

東村山市のふるさと歴史館で、志木街道にB29が落下したり、梅岩寺ではたくさんの爆弾処理をしていることを知ったり、こんなに身近なところで起きた出来事に驚きを感じたことなどを報告しました。

広島市の本川小学校の地下にある、とても熱い爆風によって焦げた木のドア枠を見て、熱い風にあたり苦しんだ人もいたんだなと恐怖を覚え、戦争や核兵器の怖さを人や建物から伝えているのだなと思ったと語りました。広島平和記念資料館に展示された、ボロボロになった服や戦争の写真などは、その時を想像できないくらい悲惨なものだったが、現実であることがとても悲しいと思えたとのことでした。

この広島派遣で、命の尊さ、戦争の理不尽さ、核兵器の恐ろしさを学び、今後、広島市で学んだことを活かし、少しでも被爆した方々に寄り添うことができたらうれしいと語っていました。

グループとしての報告の後、事業に参加した感想を１人ずつ発表しました。

- 私が広島派遣事業に参加して一番印象に残ったことは切明千枝子さんの話です。切明さんはこう言いました。私は、戦争、原爆のことを伝えるために生かされている。このように聞き、私は今聞いたことを今後は自分たちが伝えていかなければならないと強く思いました。

- 広島平和記念式典が印象に残りました。理由はこども代表の話である「平和への誓い」です。広島への想いや未来への誓いがとても印象に残りました。また、式典はテレビでしか見たことがなかったので、実際に式典に参加することができてよかったです。
- 被爆者体験講話の聴講で切明さんが話していたことがとても胸に残りました。その理由は、お話一つ一つに重みがあったからです。特に、「平和は待っていてもやって来ない」という言葉は、本当にその通りだなと思いました。核兵器のない世界、戦争のない世界、平和な世界になるように、自分ができることから努力していきたいです。
- この事業で三つのことを感じました。戦争は身近なものだということ、戦争の悲惨さ、最後に、戦争の記憶は受け継がれているということです。実際に戦争を経験した人たちが各地で話をしたり、当時のものを寄付したりしています。それを知って、この努力を繋いでいかなければならないと感じました。
- たった一発の原子爆弾によって、たくさんの人が亡くなりました。一番印象に残っているのは、本には載っていないことをたくさん知ることができ、戦争は辛いものだということがわかったことです。また、オバマ前大統領の折り鶴がきれいでした。

報告会 2

期日	平成29年8月27日（日） 東村山市「平和のつどい」
場所	東村山市立中央公民館ホール

Cグループ

東大和市では、今でも外壁や階段の裏に爆撃の跡が残っている旧日立航空機株式会社変電所を見学し、東村山市では、アメリカ軍のB29が墜落したことにより平和観音が建っていることなどを学習しました。自分たちが住んでいる東大和市や東村山市が、かつて戦禍の中にあったということを実感したとのことでした。

広島では、被爆者体験講話を聴き、とても心が苦しくなり、本当にそんなことがあったのかと悲しくなったとのことでした。体験を話している人も、思い出すのが辛いので、核兵器をなくし、絶対戦争の起きない世の中を作り、話をする必要がなくなるようにしたいと語りました。また、被爆建物を残し、後世に伝えていくことが大切なことであると感じたとのことでした。たった一回の投下で、今まで利用していた建物が全壊してしまうという、とても悲惨な状態を生み出す原爆は、もう２度と作ってはいけないと思ったと語りました。

広島平和記念資料館には、オバマ前大統領が平和を願って折った折り鶴があり、この折り鶴をきっかけに、日本とアメリカ間だけではなく、世界全体が平和に意識を向けてほしいと思ったことを報告しました。

グループとしての報告の後、事業に参加した感想を１人ずつ発表しました。

- この事業に参加して、一番伝えたいと感じたことは、平和、命の大切さです。私は、平和を作っていけるのは、今を生きる私たちなのだ、私たちが努力しなければ、作れないのだと思いました。自分の利益のために戦争をはじめようとする人がいますが、戦争なんて、二度と起こしてはいけないものです。みなさんの周りに、戦争をやろうと言っている人がいたら、声を出して、戦争の悲惨さ、辛さを教えてあげてください。
- 広島に行って、思ったことが一つだけあります。それは、原爆で辛い思いをしても、あきらめずに復興のために努力し続けたことが本当にすごいことなのだと思いました。これからは、原爆の恐ろしさ、戦争の恐ろしさを忘れずに、今回学んだことを後世に伝えることができればいいなと思います。
- 私はこの学習で、平和は黙っていてもやって来ないということをたくさん感じることができました。もうこれからは戦争は起きないと思っているそこのあなた、今でも戦争は起きるかもしれないのです。だから声を上げて、戦争はだめだと訴えなければいけないのです。私は声を上げていき、ずっと平和が続くようにしようと思いました。
- 私は今回の事業を通じて、今何気なく過ごしている平和の大切さを改めて感じることができました。一人ひとりが核や戦争について、絶対にいけないという意識を持ち、争いにしないと考えることが、世界平和への一歩なのだと思います。同じ過ちを繰り返さないために、しっかりと次の世代へ語り継いでいきたいと思います。
- 今回の学習で学んだことは、平和や命の大切さについてです。戦争は罪のない命を奪うものです。だから平和を築く必要があります。平和を築くために様々な努力をし、戦争をしない世の中を作る必要があると思いました。

6 参加者感想文

A グループ

広島に行って学んだこと

東大和市立第五中学校　１年
遠藤　真緒

私は「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加して学んだことが３つあります。

１つ目は、戦争を体験した切明さんのお話についてです。切明さんは15歳の頃に戦争を体験しました。原爆が落とされた時、建物の下じきになってしまったそうです。その時、切明さんは、橋を渡ろうとしていたそうですが、疲れてしまったので休憩をしていたら、橋が原子爆弾のせいで崩れ落ちてしまったそうです。もし切明さんが橋を渡っていたらどうなっていたでしょうか？考えるのも怖かったそうです。切明さんは、戦争について語れる、戦争を体験している人です。戦争というものは、辛くて、尊い命までうばってしまうものです。絶対に戦争をしないために、切明さんから聞いた話を皆に伝えていけたら良いと思います。

２つ目は、原爆ドームについてです。原爆ドームは、かつて広島で一番栄えていた場所で美術展の会場としても有名だったそうです。そこの周りは工場地帯で、住んでいた人もとても多かったそうです。原子爆弾が落とされた時は、８時15分でした。工場で働く人や、学生などは、通学中に原爆が落とされたので、その原爆ドームの周りにいた人はほとんどが亡くなってしまいました。たくさんの命をこの原子爆弾でうばわれ、亡くなってしまうのが本当に辛いし、絶対に戦争をしないように命の尊さや戦争の悲惨さなどを心に刻んでおきます。

３つ目は、旧日立航空機株式会社変電所についてです。私達の身近にある変電所で、計３回も米軍からの大規模な攻撃を受け111人もの尊い命が失われました。空襲によって工場内の建物は、ほとんどが破壊された中、変電所は生き残りました。その結果、変電所は今もなお無数の傷跡を残しており、当時の攻撃のすさまじさや戦争の恐ろしさや悲惨さ、平和の大切さを考えさせられました。

この事業に参加して、戦争とはあってはいけないものだと思いました。そして戦争がどれだけ悲惨なのかが本などで読むよりも、体験者のお話を実際に聞いたり自分の目で確かめたり見たり聞いたりすることで、より理解することが出来ました。その中でももう二度と起こってはいけないことだと思いました。

最後に、この事業を計画して下さった方々、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。私達は平和な未来を望み、作っていきたいです。そして戦争の悲惨さを忘れないで、身の回りの友達などに伝えていきたいと思います。

楽しい思い出と切ない過去

東村山市立東村山第七中学校　１年
鈴木　脩崇

僕は、８月の５日、６日、７日に広島派遣事業に行かせていただきました。

まず、出だしは７月７日に事前説明会に行きました。そこでは、当日どんなことをするのか？広島県の特徴などをしりました。次に、７月21日の平和学習会でまず、ふるさと歴史館に行きました。そこで、参加者の自己紹介をしました。そこで竹本和生君（通称竹チ）と会い僕は直ぐに友達になれました。そしてふるさと歴史館で色々な話を聞きました。B29のおそろしさや、平和公園が最初は街だったことなどを聞き驚きました。その次に向かったのは、東大和の旧日立航空機株式会社変電所です。広島の原爆日と東大和の説明などがありました。変電所では一部、棒が壁に貫通するなど数多くの穴などがありとても驚きました。そして平和学習会が終わりました。

いよいよ広島当日。朝早く東村山駅に行きました。そして、品川に着き竹チ達と合流しました。その後久しぶりの新幹線に乗り広島に向かいました。まずびっくりしたことがあります。それは、約４時間程度で広島についてしまったことです。途中、道のりは京都タワーなども見えて、景色は最高でした。次に発表されたホテルの人たちです。僕は、三中の田口君と東大和２年の古田君と一緒になりました。その二人ともすぐに仲良くなりました。

そして４時間たち広島に着きました。まず、最初に驚いたのは東京よりもすごく暑いことです。その日の最高気温は34度ととても暑く感じました。そして１日は終わりました。

２日目。早朝、平和記念式典に行きました。そこで、再び「戦争はダメだ」という言葉を思いました。そして、安倍総理の話を生で聞いてきました。

次に放射線影響研究所に行きました。そこでまず僕の好きな顕微鏡で血液を見ました。とてもきれいでした。

２日目の夜ごはんはお好み焼きでした。自分で作ったり家族で作ったりするのとは、少しちがう味でおいしかったです。

そして最後の３日目。まず平和記念資料館に行きました。そこには、あのオバマ大統領の作った折り鶴などがありました。そこも、悲しい過去がたくさんありました。そして、また同じ時間で帰り東大和の人ともお別れしました。

僕はやっぱりこの地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に本当に感謝しています。ありがとうございました。

戦争と平和

東大和市立第三中学校　３年
竹本　和生

僕達は、７月21日に、東大和市と東村山市で、身近な地域の戦争について学びました。また、８月５日から７日まで広島に行き、原子爆弾の恐ろしさなどについて学習しました。８月19日には、これらの事をまとめて発表をしました。

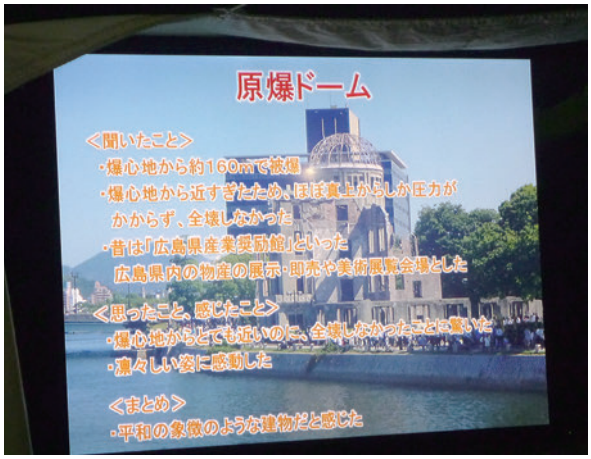
東大和市では、第二次世界大戦で被害にあった、都立東大和南公園にある旧日立航空機株式会社変電所に行きました。東村山市では、第二次世界大戦で使われた武器や、平和を祈って作られた千人針などがある東村山ふるさと歴史館に行きました。これらの建物や、使われていた物、作られた物などを通して、戦争の恐ろしさを改めて感じることができました。東大和市と東村山市のように、身近な地域でも戦争が行われていたことに、僕はすごく衝撃を受けました。

広島では、被爆者の話を聞き、放射線のことや、原子爆弾により壊された建物、第二次世界大戦で使われた物、作られた物を見ました。被爆者の方は、原爆の恐ろしさや自分の体験を、辛い中、僕達に伝えてくれました。被爆者の話で、心に残っている事は２つです。

１つ目は、原爆の恐ろしさについてです。原爆は、地上から600メートル近くで爆発し、たくさんの放射線と高熱をもつ爆風を発し、それにより多くの人や多くの建て物が被害にあって、病気になって亡くなったり、建て物は骨組みだけになったそうです。原爆の恐ろしさを、話を聞いているだけで、想像できました。

２つ目は、平和は自分から行動しないとやって来ないという事です。平和を守るとは、戦争をしないということです。戦争をしないために、「戦争反対」と、みんなに呼びかけることで、平和になる事がわかりました。

僕は、東大和市・東村山市地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を通して、たくさんの事を学ぶ事ができました。この事業で学んだことは、しっかりと、大人になっても、覚えていられるようにしたいです。学んだことを、友達や家族、知り合いなど、多くの人に伝えて、平和を守りたいです。この経験は、本当にいい経験になりました。



笑顔、平和のために

東村山市立東村山第五中学校　２年
古屋　流菜

私がなぜ、この事業に参加したのかというと、原爆についてとても興味があったからです。小学生の頃から、「はだしのゲン」という本を読んだり、原爆について調べたりしていました。そして、いつか原爆ドームへ行ってみたい、式典に参加してみたい、と思うようになったのです。なので、この事業についてのプリントをもらったとき、これに参加してみたい、と思いました。そして、原爆についてたくさん学ぼう、と意気込んで参加したのです。

まず、７月には地域の戦争について学習会をしました。ふるさと歴史館でDVDを見たり、旧日立航空機株式会社変電所へ行ったりしました。DVDでは、私達の身近な地域でおこった戦争について言っていました。空襲がおきたときの日記の部分を見たとき、本当に怖かった、という気持ちが伝わってきました。また、中央図書館に被爆石モニュメントがあったことに驚きました。なぜなら、よく図書館には行っていたのに、そのモニュメントがあるとは知らなかったからです。こんなにも身近に戦争があるのだ、と実感しました。変電所を見たときは衝撃を受けました。南側には無数の穴が空いていて、南側を中心に攻撃されたのがよく分かりました。特に、ある一室からは、中からも外が見えるほどの穴が空いていて、銃弾の恐ろしさを実感したのです。

いよいよ広島へ行く日になりました。私は新幹線に乗るのも、広島へ行くのも初めてだったので、緊張したと同時にわくわくもしていました。

私が広島で一番心に残った建物は、広島平和記念資料館です。ここで見たものは今でも目に焼きついています。例えば、真っ黒に焦げた三輪車です。三輪車が大好きな伸ちゃんは、原爆投下当時も三輪車に乗っており、そのまま被爆したのです。数日後、火傷を負った伸ちゃんは亡くなってしまいました。その後、焦げた三輪車は資料館で展示されたのです。私はそれを見て、伸ちゃんはきっと、もっと三輪車で遊びたかっただろうな、と思い、胸がはり裂けそうになりました。他にも、背中部分が大きく破れた「建物疎開」の作業服や、８時15分で止まった時計などがありました。どれも原爆の威力や恐ろしさを感じさせるものでした。これらを見ているうちに、なぜ日本に落とされなくてはならないのだ、と疑問、そして怒りが湧いてきました。

一番行ってみたかった原爆ドームを見たときは、喜びと驚きでいっぱいでした。まるで平和の象徴のような建物だと感じました。私は、爆心地に近かったにもかかわらず、全壊せずに残ったことにとても驚きました。これは、爆心地に近すぎたため、ほぼ真上からの爆風を受け、側面などが残ったのです。骨組みになった屋根、ところどころ欠けた壁、そんな姿になっても立ちつづけるこのドームは、とてもりりしく感じ、感動しました。

今回の事業で、戦争や原爆、平和についてたくさんのことを学びました。初めて見た、知ったこともあれば、改めて実感したこともありました。私は、これらのことを学び、平和な世の中をつくるためには、戦争をしないことが何より大切だと思います。どんな理由があろうと、命を奪い、笑顔も奪う戦争はしてはいけないと思うのです。原爆も落としてはならない、と思いました。切明さん、岩田さんのお話を聞き、命の大切さや、家族を失う辛さなどを教わりました。それほど原爆は恐ろしいのだ、と感じました。私は平和な世の中に、笑顔は不可欠だと思うのです。笑顔があふれていれば、平和である何よりの証拠だと考えたからです。なのでこれからは、命をもっと大切にし、笑顔を絶やさずに毎日を過ごしていこうと思います。そして、私だけでなく、みんなが笑顔になれるよう、戦争、原爆の悲惨さや平和の素晴らしさを伝えていきたいです。

B グループ

原子爆弾が落とされた広島と長崎

東村山市立東村山第二中学校　２年
大澤　耕喜

私が、原子爆弾と聞いて思い出すのは、広島と長崎です。日本で初めて原子爆弾が落とされたのが、広島県です。1945年８月６日午前８時15分のことです。原爆ドームから、465メートル地点が爆心地です。

５階だての原爆ドームは、鉄筋だけの姿になり、まわりの建物は、なくなりました。窓も割れて、まるはだかになってしまいました。

広島に落とされたのは、「リトルボーイ」と呼ばれる原子爆弾です。

一方、長崎県に原子爆弾が落とされたのは、1945年８月９日午前11時２分のことです。

広島県に落とされた原子爆弾よりも比較的大きくて「ファットマン」と呼ばれています。

原子爆弾はB29爆撃機「エノラ・ゲイ」号から落とされました。上空600メートルの地点で爆弾が爆発するようにセットされたそうです。たった一発の原子爆弾で多くの人々が亡くなりました。人だけではなく、町の全てが姿を変えてしまいました。原子爆弾の威力の大きさにおどろきました。放射線の温度は、1,000度をこえています。皮膚が破れ、ただれてゆうれいのように歩いている人々の姿が忘れられません。

式典で飾られていた花は、菊の花だそうで、沢山飾られていました。菊の花の後ろにあった火も特別な火で雨・風・雪でも消えないということです。式典では、こども代表が二度と戦争をおこしてはならないと話していたことが印象に残っています。平和記念資料館で、オバマ前大統領が折った鶴を見ることが出来ました。広島でお世話になったガイドの土屋さんからオバマ前大統領が折った鶴の６つのうち２つは長崎に届けられたことを教えてもらいました。

今回の派遣事業では、広島の原爆ドームを見ることと、オバマ前大統領が折った鶴を見ることができて良かったです。そして、原子爆弾は二度と落としてはならないと思います。

私は、戦争はおこしてはならないと思っています。理由は、72年前の日、ごく普通の人々がたくさん殺されてしまったからです。戦争をしないためには核兵器を増やさないことが大切だと思います。また、原子爆弾のこわさを忘れないようにすることも大切です。忘れてしまうとまた、広島県・長崎県のように、原子爆弾が落とされ苦しむ人が出てくるかもしれないからです。

今回、広島派遣事業に参加できて、ほんとうに良かったです。戦争のこわさ、原子爆弾のこわさを忘れずに生活していきたいと思います。

地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で学んだこと

東大和市立第五中学校　１年
菊池　優羽

この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で学んだことは、戦争のこわさ、原爆のおそろしさ、そして、命の大切さです。

地域の戦争・平和学習では、東大和市にある、旧日立航空機株式会社変電所、東村山市にある、ふるさと歴史館を見学しました。旧日立航空機株式会社変電所では、とても頑丈な建物なのに、たくさんの穴が開いていて、中からもわかるくらいで、当時この建物の中にいた人はどんな気持ちだったんだろうと思いました。ふるさと歴史館では、戦争当時の道具などが展示してあり、戦争当時の物がよく残っているなと思いました。自分達が住んでいる町が昔は戦場だったと考えたことがなかったけど、考えることができ、よかったです。

広島派遣事業では、２泊３日で、被爆者体験講話・式典・袋町小学校・広島城・江波山気象館・放射線影響研究所・本川小学校・原爆ドーム・とうろう流し・平和記念資料館・原爆死没者追悼平和祈念館・原爆の子の像を見学しました。被爆者体験講話では、原爆によって、たくさんの人が体や心に傷をおって苦しい思いをしていたことがわかり、原爆のこわさを知りました。式典は、テレビでしか見たことがなく、実際に参加することができよかったです。袋町小学校は、２階にあった折りづるなど、広島以外の町でも平和を願っているということが知れてうれしかったです。広島城では、広島城は原爆によってこわされたと思っていたけど、爆風によってこわされたと知り、原爆のおそろしさをあらためて知ることができました。江波山気象館は、被爆した建物だとわかり、すごいと思いました。いろんな物を見ることができました。放射線影響研究所は、いろんな体験をすることができ、楽しかったです。本川小学校では、資料館を見学しました。原爆の落ちたところから近いのにきれいに残っていたのがすごいと思いました。でも、中は爆風により焼けていたりしてこわいと思いました。原爆ドームは、ドームの上に落ちたわけじゃないのに、原爆が落ちた一瞬であんなにこわれてしまうということにこわいと思ったけど、それ以上におどろきました。とうろう流しでは、子ども・大人・高齢者・外国人の多くの人が平和を願いながら、とうろうを流していました。夜に見たとうろう流しはとてもきれいでした。平和記念資料館は、当時使っていた服や日用品が原爆によってボロボロになっていて、すごい威力だと思いました。原爆死没者追悼平和祈念館では、遺影コーナーを見学しました。遺影にのっている人は小さい子どもから高齢者が何人もいて、とてもかわいそうだと思いました。原爆の子の像は、折りづるもあって、この像を作った人達は原爆によって亡くなった子達のことを想い作ったんだろうなと思いました。

この３日間でいろんなところに行き、いろんな体験ができ、たくさんのことを学びました。これからは私達が広島で学んできたことを戦争・原爆のこわさを知らない人に伝えていけたらと思います。そして、戦争・核兵器のない国を作っていきたいです。

これからの平和を願って…

東村山市立東村山第五中学校　１年
野澤　有希

私は、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業にすごく軽い気持ちで参加しました。広島の戦争、原爆のことはもちろん、地域の戦争についても何も知りませんでした。授業ですこし戦争について学習しただけで、何の想いも出てきませんでした。

初めて東大和市から参加する子たちと顔を合わせたとき、仲がいい子と班が分かれたことを知ってとても不安になりました。でもＢグループのみんなは、フレンドリーな人が多くすぐ仲よくなることが出来ました。

この日、学校の終業式で地域の戦争・平和学習会には前半参加出来なかったので、本を見たり、Ｂグループの子たちに話を聞いて初めて地域の戦争について知ることが出来ました。おどろく事ばかりで、こんな身近なところで戦争があったのを知り胸が痛くなりました。

私は、広島で過ごした３日間で思い、感じ、考えたことがたくさんあります。それは今笑っていられるこの日々が宝物だということです。今は、やりたいことが出来て、欲しい物は買ってもらうことが出来て、いやなことはいやと言えるけど、戦争中はやりたくても何か欲しくても自由にすることは出来なかったそうです。自由に暮らすことが出来なかった72年前の人たちのことを考えると、今の自分では、まともに生きて行くことが難しいなと思いました。

そして、被爆者体験講話聴講では、被爆者の切明さんのお話を聞いてるとき耳をふさぎたくなりました。聞いているだけでも72年前の感覚になってたえられなくなりそうだったからです。でも大事な体験で、これから私たちが伝えていかなければいけないので、きちんと胸にとめて聞きました。お話の中で一番胸につきささったのは、

「平和は待っていてもやってこない。」

という言葉です。今自分が何をすればいいか気づかせてくれました。今の日本があるのは、みんなが一丸となって必死に声をあげて努力したからなんだなと思いました。今の日本が平和でも気づかないうちに戦争は忍び寄ってくるかもしれない。だからこのお話を身近な人から多くの人に伝えていかなければならないと感じることが出来ました。

私は、この事業でたくさんのことを学び、今日本の平和のために何が出来てやっていけばいいのか分かりました。世界には、戦争をやっている国や、やろうと言っている国があり、核兵器を持っている国も多くあります。そのため小さい子どもからお年寄りまで苦しみ悲しんでいます。今まで、戦争を軽く見ていた人や戦争をやろうと言っている人、戦争についてよく知らない人たちに、戦争、核兵器のおそろしさを分かってもらえるようにしたいと思いました。ですが、私は戦争のすべてを知っているわけではないので、学習しながら周りの人に伝えていき、これからの日本が平和で幸せであることを信じ願っていきます。

平和をつないでいくために

海城中学高等学校　２年
古田　大樹

僕たちは「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」として、７月21日に東大和市・東村山市での戦争について、８月５日から７日にかけて広島での戦争についてを、実際に戦争で被害を受けた建物を見たり、被爆した方の話を聞いたりすることから学びました。

まず７月21日の東大和市・東村山市の戦争体験についての学習では、主に２つの場所で学習を行いました。

１つ目に、東村山ふるさと歴史館です。ここでは、東大和市・東村山市に当時あった軍事施設についての話を聞きました。家族の生活を楽にするため食事が無料の少年通信兵学校に入ったり、若者が皆戦争へ駆り出されてしまったため、兵器の製造の仕事をしていた子供達の話、また戦争で心を病んでしまった軍人達を収容するための収容所などの話にはとても現実味があり、外面的なものだけでない戦争による悪影響があることを知ることができました。

２つ目に、旧日立航空機株式会社変電所です。ここについては、まず実際の空襲の体験談をまとめたDVDを見た後に、実際に見学を行いました。DVDの中では、仲間や家族が何人も死んでしまった人たちの話から、戦争の最中には人の命が簡単になくなってしまうことを知り、戦争の悲惨さ、恐ろしさを感じました。一方変電所の見学では、それを今まで残してきた様々な企業、市役所、市民達の努力を知り、それでも工場全体の一部しか残せなかった事から戦争の記憶が薄れつつあることを実感しました。

８月５日から７日の広島の戦争体験についての学習では、広島への原子爆弾の投下に関するたくさんの場所を見て回りましたが、その中で僕の印象に残ったことが３つありました。

最初に、被爆者体験講話です。ある被爆者の方の当時の体験を聞いて僕は、本やテレビなどで知っているつもりになっていた「原爆が投下された当時の広島」のイメージを打ち砕かれました。実際にそれを体験した人の話は、本やテレビとは比べ物にならない程のリアリティを持って、薄ぼんやりとしか認識していなかった広島の惨状をはっきりと知覚させました。

次に、本川小学校平和資料館です。ここは爆心地に近く、被爆時にはほとんど全ての生徒、教職員がなくなりました。しかし近代的な鉄筋コンクリート造りが幸いし、建物としての形は留めた本川小学校は、診療所や生存確認の場として使われ、３年もしないうちに授業を再開しました。僕はこのことを知って、当時そこで復興へ向けて尽力した人たちに感動し、敬意を抱きました。

最後に、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館です。ここには大量の被爆により亡くなった人達の情報や遺影が展示されていました。さらに被爆した方々の書かれた大量の原爆体験記には、それぞれの人の被爆の瞬間が克明に記されていて、圧倒されました。

僕は、この平和学習と広島派遣事業を通して、３つのことを学びました。

まず１つ目は、戦争は身近なものである、ということです。変電所の見学や、DVDの中の空襲の体験談などから、戦争は広島や長崎だけのことではなく、日本全体のものなのだと実感しました。

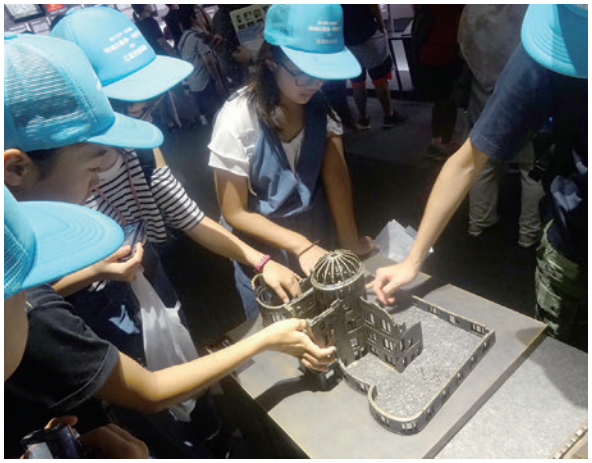
２つ目は、戦争の悲惨さ、残酷さです。広島派遣の中で、今でもガラス片が突き刺さったままの壁、焼け野原と化した広島を写した当時の写真、ボロボロになった遺品なども見て、戦争の恐ろしさを感じて寒気がしました。そして最後に、戦争の記憶は受け継がれているということです。実際

に戦争を経験した人が、今でも各地でその経験を語ったり、当時の品を寄付したりしていることを知り、その努力をつないでいかなければならないと感じました。

　だから僕は、この「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」で学んだことを活かし、戦争は身近なものだということ、戦争の悲惨さ、残酷さを忘れずに次の世代へつないでいこうと思います。

広島派遣事業を終えて

東村山市立東村山第二中学校　２年
町田　鮎美



私は東大和市・東村山市地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を終えて、学んだこと、感じたこと、改めて知ったことがたくさんありました。

まず、地域の戦争についてです。東大和市の旧日立航空機株式会社変電所は行ったことがあり知っていました。ですが中に入るのは初めてで、詳しい説明を聞いたのも初めてでした。壁を突き破った跡など戦中の建物がそのまま残っているなんてすごいなと驚きました。東村山市は普段生活している地域ですが、全く戦争についてのことは知りませんでした。身近な場所でもB29の攻撃を受けていて、たくさんの人の命が犠牲になったというのに、なぜ自分は身近な地域の戦争のことも知らなかったのだろうと思いました。自分が知らなかったのだから友達、家族も知らないかもしれません。だからこそ多くの人にこのことを伝えていきたいです。

次に広島に行って学んだことについてです。私にとって特に印象深かったのは被爆者の方の話を聞けたことです。切明さんが話してくださった内容の中で印象に残っているのは、下級生の話と切明さんが最後に言った言葉です。切明さんは被爆されたとき、建物の中にいて下敷きになったものの命は助かりました。しかし、下級生たちは全身が真黒に焦げていて皮膚がワカメのように垂れ下がっていたそうです。それをその場に一緒にいた先生が破り捨てると「先生ありがとう。これでちゃんと歩ける。」と下級生たちは言ったそうです。この話を聞いて私は胸がとても痛くなりました。辛い思いをして、自分はボロボロなのに「ありがとう」と相手に言えるなんて、その時の世界はどんな感覚だったのだろうと疑問に思いました。切明さんは被爆後、白血病を患いましたが必死の看病のおかげで一命を取り留めました。そんな、死と生の狭間で生きぬいてきたからこそ言えたのだろうと思える言葉を紹介します。

「私は戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを伝えるために生かされている。」

この言葉を聞いたとき、切明さんは何度も辛い思いをしても強い意志を持ったすごい方なんだなと改めて感じました。

広島派遣事業に参加して学んだこと、それは命の尊さ、伝えていく大切さです。切明さんも変電所でお話してくださった梶原さんも言っていた命の尊さ。命が繋がっていることで今の私たちがいる。命があることで後世にも戦争の悲惨さを伝えられる。確かに、自分の親がいなければ自分は生まれてこなかったし、祖父母がいなければ両親もいない。そう考えると、命を繋ぎ続けることは何よりも大切だと思いました。その繋いでもらった命で自分たちに出来ることは何だろうと考えた時、今回学んだことをどんどん周りに伝えていくことであると思いました。

広島派遣事業で学んだことをいかして、少しでも被爆者の方に安心していただけるようにしっかりと伝え、繋いでいきます。

Cグループ

平和への協力

東村山市立東村山第五中学校　１年
板倉　美有

私は広島に行きました。広島は東京よりもすごくいいところでした。例えば人がとても優しいのです。バスガイドさんやホテルの朝ごはんを作っている人、お好み焼き屋さんの人など、私が質問したり話しかけたりすると明るく、いやな顔をせずに話してくれました。東京も楽しいけれど、私は広島がとても気に入りました。

戦争が始まる前はこのような楽しく、明るい広島でした。今と全く変わらなかったのです。しかし72年前の８月６日、原子爆弾が投下されて、一瞬で笑い声が叫び声に変わりました。一発だけの原子爆弾だけど、真っ暗で建物がなにもなくなってしまって、その代わりに黒こげの死体がごろごろと転がっている世界に連れていかれてしまうのです。私はこのような話を聞いたり見たりしても初めは信じられませんでした。信じたくありませんでした。そもそも戦争は500年くらい前のものと思っていたので、戦争や、原子爆弾の被害にあった人が今でもいることにも驚いていました。身近なものとは思ってもいなかったのでショックで悲しかったです。

原子爆弾が投下されると、まず熱線の被害がでます。4000度から5000度の熱です。鉄がとけるのは1500度なので、とてもとても熱かったのです。次に熱風です。この熱風で建物の下じきになり、たくさんの人が死にました。放射線もあります。家族をさがしに来た人や、救助のために来た人も放射線をあびて死んでしまいました。他にもさまざまな被害がありました。また、生き残れた人も家族や友達が死んでいくのが当たり前のようになっていて、とてつもなく怖かったと思います。

しかしその人たちは街をまた作ろうとがんばってくれました。戦争は二度と起きてはいけないと必死に訴え続けてくれました。一番辛い思いをしてきた人たちが一番努力して、街を作ってくれました。その人たちはとても優しいです。辛い思いをするのは私たちだけにしようと一生懸命やってくれているのだと思います。その人たちのおかげで今の平和な広島があるのです。

私たちはそれを受け継がなければいけません。確かに戦争を体験していないと本当のこわさはわかりません。しかし、話を聞いたり資料を見たりするだけでもたくさんの辛さが十分に伝わってきます。戦争を語ってくれる人はどんどん減っていきます。戦争のことについて自分から率先して知ってほしいです。戦争は怖いということを知っていればいいとは思わないでください。私は戦争のことをたくさん知っていると思わず、もっともっと情報を集めてください。そしてそのことをたくさんの人に広げてください。今の時代はチェーンメールなど、とてもどうでもいいものばかり広めています。そんなものよりも戦争の辛さの方が広げる意味があります。これでもか、というほど広めてください。そこまでしないと戦争はなくならないと思います。

次は偉い人たちに言います。言葉を大切にしてください。言葉で解決させてください。いくら相手が武器を使ってきてもこちらは武器を使わないで言葉を武器にしてください。自分たちの利益のためだけに国民を苦しませないでください。72年前の世界は二度と現実にさせないでください。そして私たちの意見も聞いてください。子供を無視しないでください。

私もこの平和を永遠に続けられるように、生きている限りたくさんの人に戦争の辛さを伝えていきたいです。私はこの事業でものすごくたくさんのことを知ることができました。本当にありがとうございました。

戦争、原爆、平和について

東大和市立第一中学校　１年
小倉　拓巳

僕は、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業をとおして、戦争、原爆の怖ろしさ、戦争が起こっていたとき、何が起こっていたのかを知ることができました。

僕たちが身近に住んでいるこの東大和市、東村山市でも戦争が起こっていました。戦争があった東大和市は、工場や基地などの戦争に必要なものを製造、保管する場所で、アメリカ軍にとって、とても邪魔な存在でした。なぜかというと、武器、航空機などの戦力を高める物を製造しているからです。このような理由から、この場所は、爆撃され百人以上の尊い命が犠牲になりました。

次に広島についてです。広島は今の東京と同じくらいにぎやかな県でした。戦争が起こっていたとき、この広島では、馬などの動物や大量の兵士を戦場に送る場所でした。また、この広島県広島市は、今でいう商店街や旅館などがある町で多くの人がいました。しかし、この場所に原爆が落とされ、その影響で広島市の人口の約３分の１が命を落としました。原爆は一発だけでも、相当な被害を出します。例えば、建物の破壊、大やけど、白血病などがあり、今でも大やけどや白血病によって、苦しんでいます。原爆は、人体に大きな影響を与える核兵器です。今でも、この核兵器を所持している国はやまほどあります。広島の悲劇をくり返さないためにも、核兵器のない世の中を作る必要があると思いました。

そしてもう１つ学んだことがあります。それは平和についてです。

僕は、平和のことを知るために、平和記念公園に行きました。平和記念公園では、平和祈念式が行われていました。その中でも、一番心に残ったのは、小学６年生による「平和への誓い」です。なぜこのできごとが心に残ったかというと、僕とほぼ同じ年齢なのに、平和な社会にするために、自分ができることをしっかり考え発表していたからです。このことから、発信することの大切さを知りました。この平和祈念式で平和の大切さや必要性を知ることができ、また、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、原爆によって身元が確認されてない人がテレビ画面に顔写真つきで紹介されていました。僕はこのとき、この紹介されている人たちがかわいそうに思いました。なぜなら、その人が家族や親せきにも引きとられなく、１人ぼっちだからです。原爆によって一瞬のうちに命を奪われ家族とも会えないのはとても悲しいと思いました。

広島や地域の戦争の歴史を知りました。今まで原爆は、最強の爆弾という印象だけだったが、今では、人の命や未来を奪う最悪なものだという印象になりました。また戦争は、罪のない人の命を奪うものです。命を奪うということは人生を奪うということです。戦争の体験は今後において不要なものです。今、必要なものは、「平和」です。戦争で成立する世の中を作るのではなく、平和で成立する世の中が必要です。平和は、自分たちでつくるものだから、今、僕にできるのは、広島の悲さんな戦争の話を伝えることが、必要だと思いました。

広島に行って

東大和市立第五中学校　１年
尾上　琴美

私は今回のこの事業に参加できたことが本当にうれしかったです。

広島に行って、広島の方々からお話を聞いたり、もう二度と経験できないものばかりでした。

特に、広島平和記念公園の式典が心に残っています。

私はこの式典をテレビでしか見たことがなく前から少し興味があったので式典に出席出来て本当によかったです。

式典で流された曲がすごく印象に残っています。

式典の中で、小学校６年生の男女２人がスピーチをしました。

「必死で生きてきた人々がいなければ、今の広島はありません」という言葉に心を打たれました。

この人々がいなければ、今の広島はなかったことを改めて知りました。

他にも、広島だけではありません。

長崎にも原爆。

身近な地域ここ東大和市・東村山市にも、爆弾が落とされました。

でも今は戦争があったと感じられるものは少なくなってしまいました。

戦争で深い傷を負った人々が今を作り上げました。

この人々がいなければ、日本はどうなっていたのか想像することもできません。

今回の事業でこのことを改めて実感することが出来ました。

他に、原爆ドームも心に残っています。

原爆ドームもテレビでしか見たことがなく、参加する前からいつか見てみたいと思っていたので、今回近くで見ることが出来てよかったです。

近くで見た原爆ドームは、思っていた以上に被害が大きくすごく驚きました。

お話を聞くと、原爆ドームの被害は、他の建物と違いそれほど大きくなかったと知りました。

その理由は、他の建物は木造で出来ていたためだと知りました。

原爆ドームは、広島の中では珍しく鉄筋コンクリートで出来ていたため被害が少なかったそうです。

他にも、鉄筋コンクリートで出来ていたために残った建物があります。

それは本川小学校です。

本川小学校は爆心地に最も近い小学校だったそうです。

爆心地に近かったのにも関わらず残った本川小学校は、被爆後、けがを負った兵士たちの病院となったそうです。

病院とは言っても、薬もなく治療することも出来なかったそうです。

しかも、全員が入りきらず学校の廊下にまで兵士やけがをした人々があふれたそうです。

私は、戦争について色々なことを知っていくうちに平和とはなんだろうと思いました。

広島で出会った方にこんなことを聞きました。

「平和は待っていても来ない」

この言葉が今でも心に残っています。

今回広島に行って学んだことをずっと忘れずに、後世に伝えることができればいいと思います。

広島の平和を願って

東村山市立東村山第三中学校　３年
田口　龍義

私は今回平和学習という内容に興味を抱きこの事業に参加しました。しかし、「平和とは」と聞かれたとき、一言でこういうものですと言える人は何人いるでしょう。私もその一人です。平和って何だろう。そして戦争とはどんなものなのか。改めて参加すると決まったその日から興味から疑問へと変わり、知りたいと思うようになりました。

日常ではテレビで北朝鮮の核ミサイルについての話題や、テロリストによる爆発だとかがニュースとして毎日のように取り上げられていても自分の普段の生活に関わりのある出来事ではないために、「テレビの中の世界」としか捉えていなかったと思います。そんな中での平和学習参加でした。戦争体験や戦争の悲惨さを知るという事で、まずは地域の戦争について学習がありました。

「地域の戦争？」この自分が住んでいる東村山市でも戦争があったのかと驚きました。学習を深めるためにと、東村山ふるさと歴史館へ行きました。また、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所にも行きました。そこでは、実際にあった戦争の爪痕が残されていました。こんな身近なところでも戦争が起きていたなんて、何も知らなかったことに私は驚きました。

その後、広島に向かう事となりました。広島では被爆体験をされた切明千枝子さんのお話を伺いました。実際に戦争を体験された際の恐怖や悲惨さ、そして私たちへのメッセージを伝えてくれました。「平和は向こうからやってくるものではない、だから戦争反対の声をあげるなど私たちが平和をつかもうと努力していくことが大切。」と仰りました。私はこのお話を聞いて原爆がどれだけ恐ろしいかということ、今の環境がどれだけ恵まれているかということを知りました。

２日目は平和記念式典に参加し、江波山気象館、放射線影響研究所、原爆の子の像などを見学し、最後にとうろう流しを行いました。とうろう流しは自分達でとうろうを作り元安川という川に流します。たくさんのとうろうがあると一見幻想的ですが、72年前はその川にたくさんの人の遺体があったと思うと、この光景を見れることがどれだけ有難いかを感じました。

３日目は、広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼祈念館を見学しました。

その中でも平和記念資料館のオバマ前大統領が折った折り鶴は特に印象に残りました。これはオバマ前大統領が日本の平和を願って昨年折ったものです。この折り鶴をきっかけに世界全体が「平和」というものに意識を向けてほしいと思います。

今ある平和は人々が苦労して手に入れたもの、しかしそれは壊そうとすれば簡単に壊れてしまうものです。今ある平和を守り抜くためには、一人ひとりがどうするべきかを考えなければなりません。しかし、私がこの学習の前に平和とは何かを語れなかったように、まだまだ「平和について、戦争について」を知っている人は少ないと思います。だからこの体験を通して他の人に伝えていく事が大切だと思います。私の話を聞き、少しでも今ある平和について考える人が増えるといいなと思います。

二度とあってはならない戦争

東村山市立東村山第二中学校　２年
本橋　奈々

私が、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して印象に残ったことが主に２つあります。

１つ目は、切明さんによる被爆者体験講話です。私は元々戦争や原爆に興味がありました。ですが、原爆が落とされた時間はおろか、日付や年も知りませんでした。しかし、切明さんのお話を聞いて、すごく悲惨な被害やたくさんの犠牲者が出たこと、馬や犬などの動物の命さえも奪うものなんだと、たくさんのことを知ることができました。切明さんは、ときどき目に涙をうかべながらお話をしている場面がありました。思い出すだけで涙が出てしまうほどひどいものだと知ることができました。

そして、切明さんがお話の中で一番強くおっしゃっていたことがあります。「平和は待っていても来るものじゃない、みんなで創るものだ。みんなで声を上げよう」ということです。私がこの言葉を聞いたとき、「平和を創っていけるのは今を生きる私たちなんだ、私たちが努力しなければ創れないんだ」と思いました。だから私はこれからたくさんの人に平和を伝えて、核兵器の廃絶を目指していきたいです。

２つ目は、広島平和記念資料館の見学です。中でも印象に残っているものが２つあります。１つ目は、ボロボロになったワンピースや軍服です。私はそれを見た瞬間、言葉を失いました。いたるところが引き裂かれ、土や血で汚れていたのです。それは、原爆の恐ろしさを物語っていました。２つ目は、８時15分で止まった時計です。原子爆弾は８月６日午前８時15分に投下されました。その時計は、原子爆弾が投下された時間で止まっていたのです。バンドの部分はボロボロになり針もさびつき、ガラスもくもっていました。ですが、そんな時計からもひどいことになっていた広島の風景が思いうかびます。

私はこの広島派遣事業で気軽に体験できないようなたくさんの貴重な体験をして、今まで以上に「平和」という言葉を考え、尊重していこうと思うようになりました。また、最近は北朝鮮がミサイルを打ったり、核実験をしたり、今まで一生懸命築いてきた平和が崩されそうになっています。これを広島に行った仲間と一緒に直して行きたいと思います。来年も参加したいです。

7 参加者アンケート

アンケートの目的

「平和」や「広島」についてのイメージ等について、それぞれの考えがどのように変化するかを知るために、参加者14人に事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

アンケートの結果

＊回答者数は、複数回答した方がいるため、合計が参加者数と一致していない場合があります。

実施前 本事業に参加を決めた理由

（単位：人）

平和を学習したいから	6
広島に行きたいから	5
親に薦められたから	2
友人に誘われたから	0
その他（フリー）	1 ―「戦争に興味があったから」

実施前 広島派遣事業で最も興味がある内容は

（単位：人）

広島被爆者体験講話聴講	0
広島平和記念公園の式典	2
袋町小学校平和資料館	0
広　島　城	0
江波山気象館	0
放射線影響研究所	0
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	10
とうろう流し	0
広島平和記念資料館	2
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	0
原爆の子の像	0
そ　の　他	0

実施後 広島派遣事業で最も興味深かった内容は

（単位：人）

広島被爆者体験講話聴講	4
広島平和記念公園の式典	4
袋町小学校平和資料館	0
広　島　城	0
江波山気象館	0
放射線影響研究所	1
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	0
とうろう流し	0
広島平和記念資料館	5
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	0
原爆の子の像	0
そ　の　他	0

実施前は、ほとんどの生徒が原爆ドームでの見学について興味があるとしていましたが、実施後は原爆ドームの他にも広島被爆者体験講話聴講や広島平和記念公園の式典について興味深かったという生徒が増え、実際に広島で見たり聞いたりしたことにより心うたれるものがあったと思われます。

実施前 広島と聞いて思い浮かぶイメージは何か

お好み焼き・広島カープ・厳島神社・原爆ドーム・かき・広島城・瀬戸内しまなみ海道

原爆ドーム・広島平和記念公園

原爆ドーム・お好み焼き・広島東洋カープ・生がき

広島東洋カープ・厳島神社・もみじまんじゅう・かき・広島風お好み焼き

世界で初めて原爆が投下された。原爆によって多くの人が亡くなった。

原爆が投下された・原爆ドーム・平和記念式典・お好み焼き・戦争による大きな被害・きのこ雲・8月6日午前8時15分

原爆ドーム・厳島神社

原爆ドーム・お好み焼き・かき・厳島神社・韓国に近い

原爆ドーム・広島カープ・大地讃頌・広島平和記念公園

原爆（ドーム）・お好み焼き・カープ

1945年8月6日8時15分に日本で初めて原爆が落とされ、焼け野原になったイメージ。こげてしまった建物がたくさんあるイメージ。

原子爆弾の落とされた地域で13,000人が亡くなった。カキが有名。東京よりも暑い。

もみじまんじゅう・原爆ドーム・広島平和記念資料館

原爆ドーム

実施後 実際に行った後の広島のイメージ

自分の思っていた何倍も人々の命が失われたことに驚いた。

原子爆弾が落とされた場所とは思えないくらい復興していた。

広島の人たちが、日本が協力して今の広島があるということを感じた。

以前は、広島＝原爆ドーム、原爆ドーム＝戦争という名前だけを知っていた。そして実際に広島に行ってみて、戦争の悲惨さを物語っていて、平和がどれだけ大切か教えてくれる街だと思った。

72年前はとても辛い経験をして、ほとんどの建物が全壊したのに、今はきれいな街ができあがっていたのが凄かった。人がみんなやさしくて、私がなにか質問したら、嫌な顔をだれもせず教えてくれたりしたのが、東京とぜんぜん違うなと思った。

どこよりも平和について敏感な感じの都市だと思った。原爆の恐ろしさをより理解していて、戦争をさせないために努力しているように感じた。

行く前に疑問に思っていた事が、しっかり学べて良かった。

広島に行く前は、お好み焼きなどの食文化が発達していて、昔に原爆が落とされただけだと思っていたけど、今では、原爆が落とされ、罪のない命が奪われ、その悲惨さを伝える場所だという印象になった。

思っていた以上に戦争の遺跡がたくさん残っており、広島の人々の戦争の記憶へのこだわりに驚いた。

平和の象徴でもあるし、「核爆弾が落ちた」という事実を提示している場所でもある。また、世界に平和を伝える第一歩の場所、スタート地点でもあると思う。

広島は日本で最初に原爆が落とされた所なのに、人々が協力して再び再生された所として、すごく人々の絆が深い所だと思う。

あまり原爆で被害にあった人はいないと思ったが、広島に行き、原爆の恐ろしさを学んだ。

原爆ドームは写真でしか見たことがなかったけど、実際に見て、原爆の恐ろしさを知った。二度と戦争にならないように、広島で学んだこと、聞いたこと、見たことを戦争や原爆の恐さを知らない人に伝えなければいけないと強く感じた。

広島は原子爆弾が落とされた地域というイメージの他、お好み焼きや広島カープなどの楽しい印象もあった。しかし、実際広島に行ってみて、楽しい人がたくさんいる町と思ったけど「平和」とは何か、「戦争」がどんなに恐ろしいものか、町全体で語っているように感じた。

実施前 平和とは何だと思うか

普段の生活を送ることができること。危険がないこと。

皆が安心な毎日を送る。楽しく毎日嬉しい事がある。

美しい

全ての地域それぞれでほとんどの人々が安心して安全に生活できること。

第９条に違反しないこと。

戦争（争い）がない

戦争のない世界。戦争や争いがあると、幸せに暮らすことが出来ないから。

この地球にいる全ての生物が笑顔でおだやかに住むことのできる世界。テロや内戦が起こったり、犯罪などの非行がなくなった世界。

戦争や内乱といった大きな争いが起きず、みんな平等に暮らしていることだと思う。また、衣・食・住がしっかり守られていることも平和だと考える。

この世界に生きている人全員が苦しんだり、悲しんだりしないようなこと。戦争のような人々が悲惨な思いをするようなことをしないこと。

全員が平等に生きられる権利をもつこと。核などの危険などがなく、安心して生活できること。

戦争がない世界。みんなが仲が良い世界。３食いつも食べられること。

毎日、笑って過ごすこと。自由に過ごすこと。みんなで仲良くいること。

キラキラ・笑顔・明るい・自然がいっぱい

実施前 本事業で何を学び、何を得たいか（単位：人）

戦争の悲惨さ	12
命の大切さ	8
平和を守ることの重要性	7
自分の目で見て感じることの重要性	6
同世代の参加者との意見交換による気づき	4
平和学習に参加して感じたことを作文にまとめる力	1
その他	0

平和について事業実施前も実施後も戦争がないこと・しないことといった意見がありました。しかし、実施後は実施前にはなかった、平和を守り戦争をしないためには自分たちが行動しなければならないという意見があり、客観的な意見から主観的な意見へ変化しています。この事業に参加することで、平和への思いが強くなったことが分かります。

実施後 平和とは

今ある生活。戦争がなく、自由で、笑顔で暮らせること。手に入れるのは苦労するのに、簡単に壊れてしまうもの。

世界の人々にやさしいこと。

人々が安心して楽しく暮らす事。

自分から来る物じゃなくて、自分からやる事！（戦争反対などと言う）
↓
平和を守る

核兵器がないこと。みんな仲が良いこと。

人間が、一番わかっているつもりで、わかっていないもの。みんなで創り上げるもの。

平和とは、戦争が絶対に起きないことだと思う。

戦争をしないことだと、私は思う。みんなと仲良くして、笑顔が絶えない毎日だったら、今の時代は平和だな、と感じる。どんなになっても、戦争はせず、笑顔があふれているのが、何より平和の証だと思った。

全員が幸せに暮らせること。そして、人間が殺し合ったりせず、人間が人間らしく生活できることだと思う。

普段の生活を送れること。人と友達になり、話せること。

永遠に続かなければいけないもの。戦争の反対言葉。

笑顔で過ごすこと。平等に暮らせること。毎日が楽しいと思えること。

全ての人が、自分の権利を侵害されずに生きていくこと。

自分たちでつくるもの。幸せ。毎日が楽しい。みんなが平等で笑える世界。

実施後 本事業で何を学び、何を得たか

広島城が３回も建てられていることに驚いた。

戦争の恐ろしさや悲惨な状況について学び、今ある平和の大切さについて感じる事ができた。

戦争の被害や、辛さ、無残さを学び、二度と起きてはいけないことなんだ、起きないように努力しなければならないんだ、ということを学んだ。

戦争、原爆の悲惨さや平和の大切さについて。

本とかには、載っていないこととかをたくさん勉強できてうれしかった。

平和と原爆の恐ろしさについて、平和を守ること、戦争をしてはいけないことを学んだ。

戦争・原爆の恐ろしさ。

今平和なのは、戦争が起こり建物が崩れても、人々が協力して日本を再生させたからであり、本当に感動した。

戦争の辛さ。

戦争、原爆の恐ろしさを学んだ。そして、戦争、原爆の恐ろしさを伝えていかなければいけないという思いを得た。

戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを目と耳で実感した。「もう二度と戦争をしてはいけない」ことと「後世に伝えていく」ことをしっかりと受けとめた。

広島に行き、東京では学べないようなことを目で見て耳で聞いたりすることが出来たので良かった。

切明さん・岩本さんのお話を聞き、たくさんのことを学んだ。原爆の恐ろしさ、命の大切さ、家族を失った辛さなど、たくさん教えてもらった。それだけ原爆はひどいものなのだな、と思った。これらの事を聞いて、もっと命を大切にし、今、平和である喜びをかみしめていきたいな、という気持ちになることができた。

僕達はこの事業を通じ、一致団結の大切さを学び、また戦争の悲惨さも知った。

実施後 その他、本事業に参加した感想

広島についていろいろ教えてくれてありがとうございました。

楽しかったし、おもしろかった。

今回参加して本当に良かったと思う。今まで知らなかったことを知ったり、たくさんのことを現地の方から学んだりすることが出来た。今回のことはずっと忘れないと思う。

広島がすごく暑かったけど、すごく楽しかった。

平和についてたくさん学べてよかった。また、現実味がないと感じていたが、広島平和記念資料館などを見学して、やっぱり戦争は消すことができない起きてしまったのだと思った。

「平和とは」という言葉は使うことはあっても改めて考えることはなかった。今回の事業に参加した事で「平和とは」という事を考える機会をもてた事、そして戦争の恐ろしさについて体験をした人の貴重なお話を伺うことで何気ない平和のありがたさを感じることができた。この経験を活かし多くの人に「平和とは」について考えてもらえるように働きかけていこうと思う。

行く前に想像していたより多くのことを知ることができた。戦争を身近なものとしてとらえられるようになった。

知らなかったことだらけで、たくさんのことを学べてすごく楽しかった。友達もいっぱいでき、みんなすごく親切で、もうみんなに会えないのがすごく寂しい。戦争のことに前から少しだけ興味があったので、参加して良かったなと思った。ありがとうございました。

戦争について学んでいくうちに平和の意味を知ることが出来た。

参加した最初のときはあまり楽しくなかったけど、参加者と時間を過ごすと、ものすごい楽しかった。今は、平和の大切さを知ることができてよかったと思う。今は、とても貴重な体験になったと思う。

思っていたよりもとても充実した３日間だった。原爆について改めて気付かされたことや、初めて知ったことなど、たくさんのことを学べた。特に原爆ドームや広島平和記念資料館を見たときは、原爆の威力を身にしみて感じた。なかなか体験できないことだったので、この事業に参加して本当に良かった。これからは、戦争の悲惨さを伝えていきたいと思う。

地域の戦争についてよく知れたことがまず良かったと思う。この事業に参加しなければ一生知ることがなかったと思う。広島にも行くことができ、たくさんの戦争・原爆に関する場所で多くのことを学べたことがよかった。今後、この事業で学んだことを活かして後世に伝えていけたらいいなと思う。

参加する前は原爆が投下された日も分からなかったし、戦争の怖さも、あまり知らなかったけど、参加して、原爆のこと、戦争の怖さを知ることが出来、とてもよい経験になった。これからは、広島で学んだことを多くの人に伝えていけたらいい。

東大和と東村山で戦争の事を学んで、広島に行って原爆と平和のことを学んだ。良い思い出になったので良かった。

東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成２年10月１日

宣言

東村山市
核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日

東京都　東村山市

平成 29 年度
東大和市・東村山市
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業　報告書

平成 29 年 12 月　発行
編集・発行
東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会
・東大和市企画財政部企画課
東京都東大和市中央 3-930
電話　042-563-2111（内線 1425）
・東村山市市民部市民相談・交流課
東京都東村山市本町 1-2-3
電話　042-393-5111（内線 2558）